



*...for Tomorrow*

---

表記社名	日本ガイシ株式会社
商号	日本碍子株式会社
創立	1919年5月5日(大正8年)
資本金	494億円(1999年3月末現在)
事業内容	日本ガイシは、電力用ガイシ、各種セラミックス、環境装置、ベリリウム銅製品、電子部品の製造販売を主な事業としています。いずれも、より良い社会環境に資する製品で、その製造には永年の歴史と経験を有しています。また、品質においても一流メーカーとしてNGKブランドマークのもと、高い信頼性を得て海外市場にも進出しています。

---

## I N D E X

ごあいさつ .....	1
日本ガイシの環境基本方針 .....	2
環境活動の沿革 .....	3
環境マネジメントシステム .....	4
環境貢献のための活動状況	
省エネルギー .....	6
省資源とリサイクル .....	8
社員教育と啓蒙活動 .....	9
環境負荷減少 .....	10
環境配慮型製品の紹介 .....	11
公害防止関連法及び公害防止協定の規制値と実測値の状況 .....	12



大気や水の循環など、全ての地球環境は太陽のエネルギーで作られています。そして、微生物から人間に至るあらゆる生命も、太陽エネルギーを源とする循環サイクルの中で共生しているのです。この循環サイクルがバランスしている限り、生物と自然との共生は安定したシステムとして持続が可能です。しかし、今や人類は地球の持つ浄化能力や再生能力を上回る資源を消費し、かけがえのない地球環境を破壊しようとしているのです。

地球環境問題は、将来の世代をも含めた全人類の問題です。国、産業、市民の全てが手をつないで立ち向かい、解決しなければなりません。21世紀の産業で最も大切なことは、これ以上地球環境に負荷を与えないことです。そして、ゼロ・エミッション社会を実現するためのリサイクル・マニファクチャリング技術の確立が、持続可能な未来を得るための重要な鍵となるのです。

日本ガイシは今、「戦略的成長」「高効率体質」「良き企業市民」をキーワードに、グローバルスタンダードによるエクセレントカンパニーをめざしています。そして、環境保全活動でも世界の一流であるために、さまざまな活動をスタートさせています。地球レベルでの視野に立って環境問題を考えることが、私たちのめざすエクセレントカンパニーに課せられた重要な使命であると考えています。

代表取締役社長

比田昌治

## 日本ガイシの環境基本方針

1996年3月、日本ガイシは独自の環境基本方針を策定。

より具体的な環境活動に取り組むため、

明確な行動指針を策定しました。

より良い地球環境のため、

全社が一丸となって環境保全活動を積極的に推進、

展開しています。

### 基本理念

「より良い社会環境に資する商品を提供し、新しい価値を創造する」ことを企業理念にしている日本ガイシは、次世代の快適環境をつくるトリプルE(エコロジー、エネルギー、エレクトロニクス)の事業活動を通じて地球環境問題に貢献していくものとします。

### 行動指針

生産技術、公害防止対策、廃棄物問題を、デザインレビュー( DR )により環境への影響を科学的に評価し、必要な対策を実施します。

- 1 環境管理体制の一層の充実を図ります。
- 2 省資源、リサイクルを推進し、産業廃棄物を削減します。
- 3 省エネ対策を推進し、CO<sub>2</sub>発生量を抑制します。
- 4 環境に配慮した材料・部品・製品を優先的に購入します。
- 5 社員の環境に対する意識向上を図るため、教育、広報活動を行います。
- 6 製品のライフサイクル評価( LCA )の研究に着手し、環境負荷の減少を検討します。

## 環境活動の沿革

日本ガスは1972年、本社に環境保全室を設置し、

さまざまな角度から環境問題に取り組んできました。

1996年には、日本ガス独自の<環境基本方針>を策定し、

具体的な行動指針に基づいてトリプルE(エコロジー、

エネルギー、エレクトロニクス)の事業領域で活動を展開、

事業活動を通じて地球環境問題に取り組んでいます。

1972年4月

環境委員会及び環境保全室の設置

環境委員会:全社の環境保全に関する基本方針の企画・立案機関

環境保全室:環境保全の統括・推進本部。現、環境管理部

1992年6月

廃棄物対策部会の設置

廃棄物対策部会:全社の廃棄物に関する基本方針の企画・立案機関

1993年3月

環境に関するボランタリープランを策定

ボランタリープラン:トリプルEをテーマとする長期計画を通して、  
地球環境問題に貢献することを定めたプラン

1994年12月

特定フロン(CFC)と1,1,1-トリクロロエタンの全廃

モントリオール議定書で定められた使用廃止期限(95年末)に

先立って全廃を達成

1995年2月

社内環境監査の実施

環境ISOに先立って独自の社内環境監査を実施

1996年3月

環境基本方針の策定

基本理念、行動指針、推進体制を策定

第1次産業廃棄物削減計画(90年度比50%減)達成

第2次産業廃棄物削減計画(2000年度までに95年度比30%減)を開始

1996年12月

CO<sub>2</sub>対策部会の設置

CO<sub>2</sub>対策部会:CO<sub>2</sub>の発生量削減に関する方針を立案・審議する機関

1998年3月

名古屋、知多、小牧の3事業所で同時に

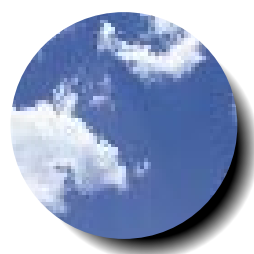
ISO14001認証を取得

1999年3月

環境レポート発行

1999年6月

エンジニアリング事業本部がISO14001認証を取得



# EMMS

## 環境マネジメントシステム

地球レベルの視野に立って環境問題をとらえ、環境活動を進めていくことは、今や地球環境を守るための必須条件です。日本ガイシでは、地球規模での環境負荷の低減を図るために独自に「環境基本方針」を策定し、環境保全活動を展開。全社的な環境保全組織を結成するとともに、各事業所の自律的な環境管理、制御を進めています。



## ISO14001 認証取得

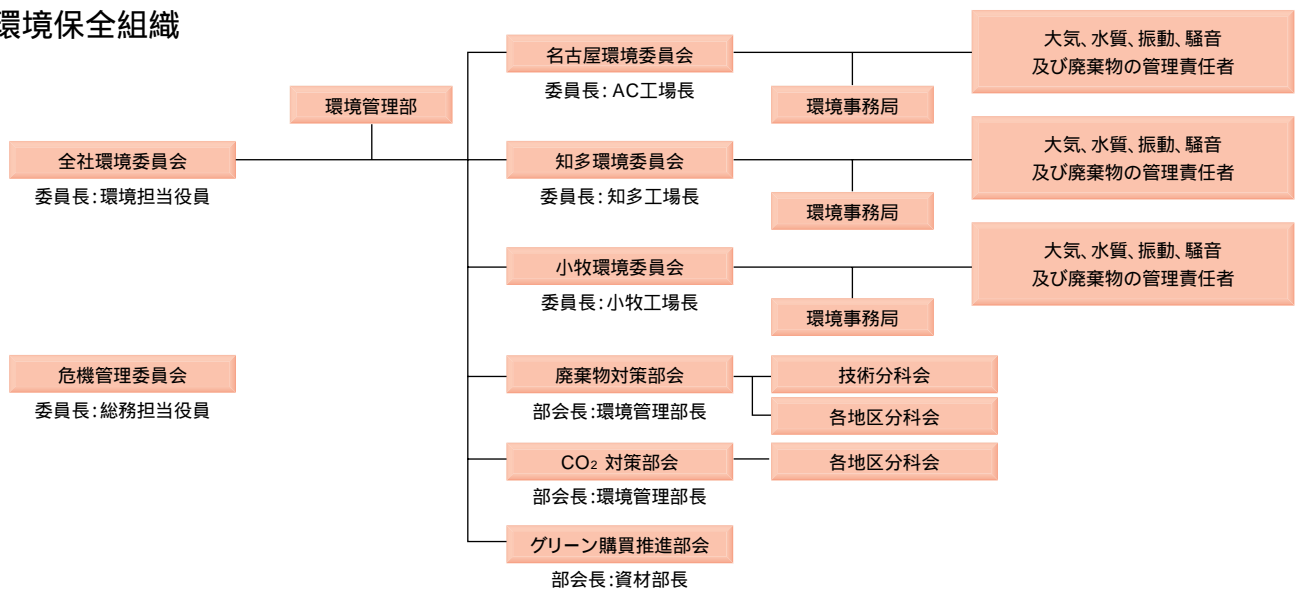
日本ガイシは、地球環境問題や資源保護に留意し、「環境マネジメントシステム」の構築を企業方針の一環として導入しています。1998年には、その国際規格である「ISO14001」を国内における主要な3事業所で同時に取得、1999年にはエンジニアリング事業本部でも取得しました。今後さらに、国内外のグループ会社へと認証取得を広げていきます。



日本ガイシの環境保全体制は、環境担当役員を委員長とする< 全社環境委員会 >をはじめ、各事業所の工場長を委員長とする< 地区環境委員会 >や、環境管理部長を部会長とする< 廃棄物対策部会 > < CO<sub>2</sub>対策部会 >、資材部長を部会長とする< グリーン購買推進部会 >で組織され、環境保全に関する方針を決定します。

EMS推進体制では、名古屋、知多、小牧の3事業所が、それぞれ< 環境配慮自律工場 >をめざし、エンジニアリング事業本部は< 環境負荷を軽減する商品 >を提供することを通じて継続的に改善を行う環境保全活動に取り組んでいます。


### 環境保全組織



#### < 各会の役割 >

- 全社環境委員会...全社の環境保全に関する基本方針の企画、立案及び審議を行います。 (1972年4月設置)
- 地区環境委員会...環境委員会の決定事項の実現と地区の環境保全に関する企画を立案、審議します。 (1972年4月設置)
- 危機管理委員会...緊急の事態が発生またはその恐れのある場合の対応を実施します。 (1991年1月設置)
- 廃棄物対策部会...全社の廃棄物に関する基本方針について立案、審議します。 (1992年6月設置)
- 廃棄物対策技術分科会...廃棄物減量に関する技術的な企画、立案を実施します。 (1998年10月設置)
- CO<sub>2</sub>対策部会...CO<sub>2</sub>の発生量削減に関する方針を立案、審議します。 (1996年12月設置)
- グリーン購買推進部会...環境に配慮した、材料、部品、製品の購入について立案、審議します。 (1999年10月設置)

登録事業所	名古屋事業所	知多事業所	小牧事業所	エンジニアリング事業本部
登録年月日	1998年3月30日			1999年6月25日
審査登録機関	日本検査キューエイ株式会社 (JICQA)			ロイド・レジスター・クオリティ・アシュアランス・リミテッド (LRQA)
登録範囲	排ガス浄化用触媒担体(ハニセラム)などの研究開発、製造にかかわる事業活動	ガイシ、特殊金属(ベリリウム銅)、環境装置関連製品などの研究開発、製造にかかわる事業活動	懸垂ガイシ、透光性アルミナ部品などの研究開発、製造にかかわる事業活動	水、及び下水処理設備、低・中レベル放射性廃棄物処理設備、騒音防止装置のプロジェクトマネジメント、エンジニアリング、設計、開発、購買、据付け業務にかかわる事業活動



## 環境貢献のための活動状況

### ■ 省エネルギー

---

窯業において<焼成>は必要不可欠であり、

CO<sub>2</sub>の排出はまぬがれないのが実状です。

だからこそ、私たちはその現実と向かい合い、

「地球温暖化」や「酸性雨」の主たる要因となる

CO<sub>2</sub>排出量の削減に、全力で取り組まなければなりません。

日本ガイシでは、省エネルギーの推進を急務ととらえ、

CO<sub>2</sub>対策部会を中心に、具体的な目標数値を設定。

製造過程のシステムを改善するなど、

さまざまな角度からCO<sub>2</sub>削減を図っています。



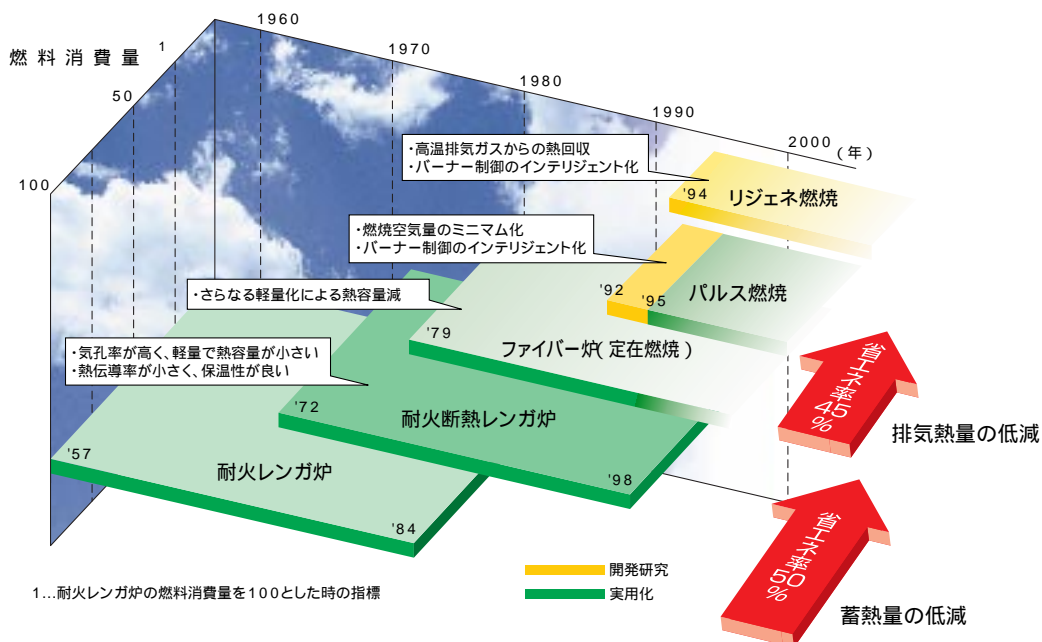
## 新技術開発で省エネを推進

かつて単独炉の炉材には耐火レンガが使用されていました。この耐火レンガは緻密で熱容量が大きいため、余分なエネルギーを消費していました。日本ガイシでは1970年代に耐火断熱レンガを、1980年代にセラミックファイバーでできた耐火断熱材を世の中に先駆けて導入。炉材を軽量化して蓄熱量を大幅に削減しました。

また、1990年代に入ってから、炉から排出される排気ガスの低減や、高温排気ガスからの熱回収に積極的に取り組み、バーナー制御のインテリジェント化を図る中で、パルス（間欠）

燃焼システムやリジェネ燃焼システムを自社開発しました。パルス燃焼は、バーナーを間欠燃焼させることにより過剰な燃焼空気を減らすことを、リジェネ燃焼は、バーナーに蓄熱体を設けて排気口として使用することによって排気ガスの熱回収を行うことを特徴としています。燃料消費量は、従来のファイバー炉に比べ約半分に削減でき、排気ガス量が大幅に抑えられることから、CO<sub>2</sub>排出量の削減にも大きく貢献できます。

NGKにおける省エネ技術の推移(単独炉)



## 焼成炉の余熱を有効利用

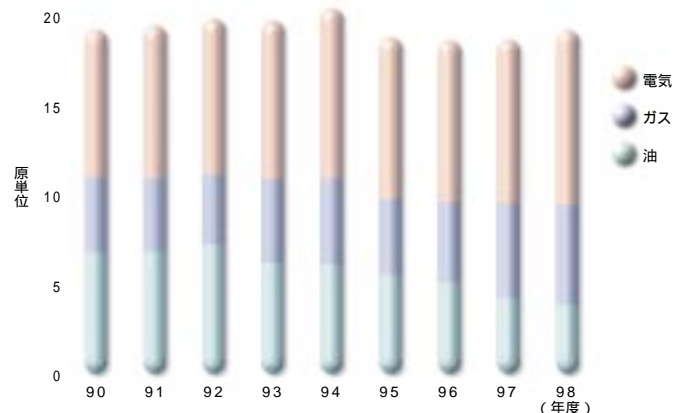
焼成炉の余熱も大きなエネルギー。乾燥工程に不可欠な熱風として有効利用しています。

(8ページ生産工程図参照)

## 燃料の転換でCO<sub>2</sub>発生量を削減

知多工場では、焼成炉の燃料を油からガスに全面的に切り換え、CO<sub>2</sub>の発生量を大きく削減、SO<sub>x</sub>についても100%削減しました。AC工場や小牧工場でも燃料の転換を進めています。

CO<sub>2</sub>排出量(原単位)の推移  
(kg-C/億円)



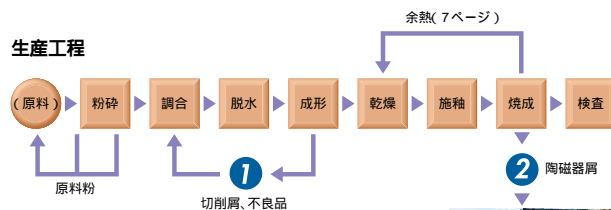
## 省資源とリサイクル

日本ガイシでは、資源を有効活用するとともに産業廃棄物を出さないよう積極的な取り組みを開始しています。成形工程では、製品づくりの各工程で発生する切断屑などを徹底利用し、すでに資源の完全リサイクルを達成しました。また、取引先から産業廃棄物を回収し、その再利用を推進するなど、ゼロエミッションを実現するために、さまざまな取り組みを進めています。

生産工程では完全リサイクルを実現  
ガイシ・ハニセラム生産工場

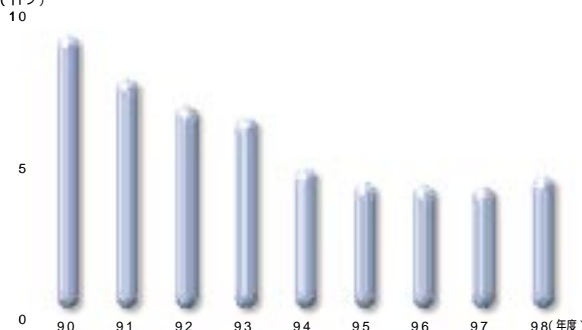
成形工程で発生する切削屑や不良品は、再び調合工程に戻し、その100%を再利用します。(①)

焼成後の不良品(陶磁器屑)は、たとえばレンガなどの耐火物の原料や、吸音板や散気板などの原料の骨材にリサイクルされ、その全てが有効利用されています。(②)



陶磁器屑でつくられたセラミック吸音板(環境装置事業製品)

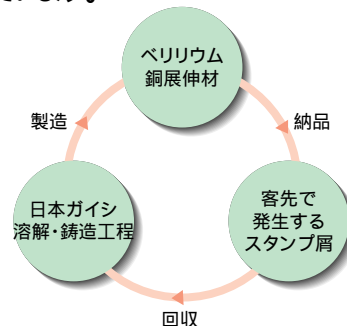
全社産業廃棄物処分量の推移(千トン)



廃棄物の回収、再利用を率先

ベリリウム銅展伸材生産工場

ベリリウム銅展伸材はエレクトロニクス部品など、きわめて小型の製品に加工されるため、多くのスタンプ屑が発生しています。日本ガイシでは、取引先からスタンプ屑を回収し、ほぼ100%を再利用しています。



## 社員教育と啓蒙活動

地球環境を守るためには、一人ひとりが環境問題を理解し、意識をもって行動することが大切です。

日本ガイシでは、環境保全に関する推進組織や小集団活動、社内報や社内ビデオニュースなどを通して、社員一人ひとりの心にまで届く啓蒙活動を実施しています。

オフィスごみの分別を徹底

名古屋・知多・小牧事業所では、オフィス毎に「リサポスト」(リサイクルポスト)を設置し、再資源化のためのオフィスごみの分別収集を徹底。1998年10月以降、3事業所全ての紙ごみの再資源化を達成しています。感熱紙や包装紙などの紙ごみも、ミックスペーパーとして古紙100%のトイレトペーパーにリサイクル、社内で利用しています。



名古屋市長主催の「ごみ減量市民大集会」で、日本ガイシ本社ビルがごみ減量資源化優良事業所として表彰されました。

グリーン購買の取り組みを開始

エンジニアリング事業をはじめ、環境負荷を軽減する商品の開発を積極的に進めています(11ページ参照)また、環境ISOに取り組む企業との取り引きを優先するなど、環境負荷低減のための購買を推進。オフィスでも、古紙100%・白色度70%のコピー用紙や、再生プラスチックのボールペンなど、エコマーク取得製品を使用しています。

レスペーパー活動を推進

紙で回覧していた通知、通達類や決裁書類も、社内パソコンネットワークで回覧、多くの業務でペーパーレスが実現しています。会議でもプロジェクターの使用を奨励し、資料の配布を抑えています。また、社内ユースのコピーには裏紙を利用するなど、レスペーパー活動を展開しています。

環境意識を向上

環境問題への取り組みは、一人ひとりの意識の高さや正しい理解が重要であると考えています。日本ガイシでは、社員一人ひとりの環境に対する意識を啓蒙するため、次のような教育、啓蒙活動を行っています。

設計担当者などを対象に法対応教育を実施し、企業の活動と社会的責任について認識を深めています。

環境方針の主旨や内容を理解し、自覚するために、EMS教育を実施。

各部門の目標値を記した「環境カード」が配布され、環境宣言を各自が記入しています。

小集団活動のテーマとして産業廃棄物対策や省エネルギー対策を取り上げています。

社内報や社内ビデオニュースでも環境問題への取り組みを特集し、意識の高揚を図っています。



## 環境負荷減少

日本ガイシでは、提供する全ての製品・設備の環境負荷をゼロに近づけたいと考え、設計段階から根本的な解決策を講じています。製造工程においてはもちろん、実際に使用・活用される全ての段階をシミュレーションし、さらに審査を重ねた上で、製品や設備の設計を決定。

地球環境への負荷を最小限におさえるために、そして、未然に防ぐために最大限の努力を費やし、<よりよい製品づくり>を進めています。

いち早くフロン、トリクロロエタンの使用を全廃。オゾン層破壊物質である特定フロンや1,1,1-トリクロロエタンの使用をモントリオール議定書に先立って1994年に全廃し、水系洗浄剤などに切り替えました。代替品には、全てオゾン破壊係数がゼロのものを選んで使用しています。

### フロン

使用方法	NAS電池の 金具部品洗浄	EC部品の洗浄	耐酸機器金具、 樹脂の洗浄	VTR、FDD用 ヘッドの洗浄
使用量 (Kg/年)	7,500	1,000	220	3,000
代替品の名称	水系洗浄剤	(1次)灯油 (2次)エタノール	IPA	IPA

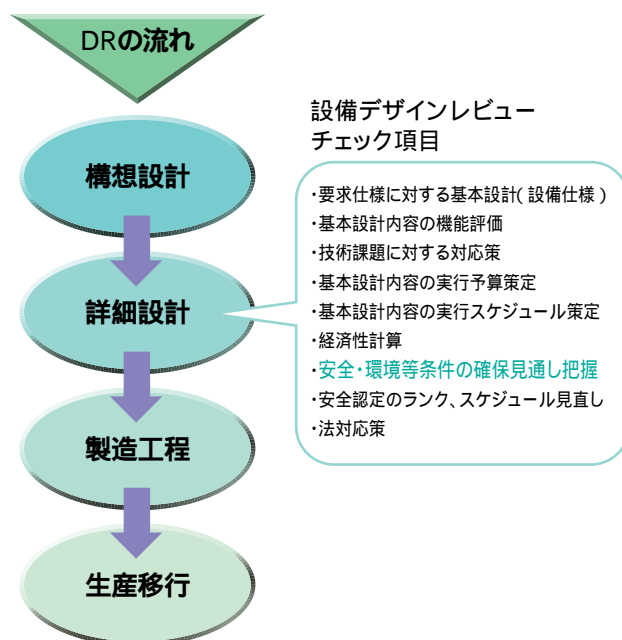
### 1,1,1-トリクロロエタン

使用方法	ブッシング 金具部品洗浄	ベリリウム銅 の洗浄	ワニスの 溶剤	金具、 樹脂洗浄	VTR、FDD、 RDDの洗浄
使用量 (Kg/年)	12,500	960	30,000	12,000	10,200
代替品の名称	HC系溶剤	水系	ジロルメタン、トルエン、 メチルシクロヘキサン	部品:水系 樹脂:HC系	水系洗浄剤、 HC系溶剤

### 環境負荷を未然に防止

日本ガイシでは、環境負荷をできる限り低減する生産技術や製品を開発するために、1988年からデザインレビュー(DR)の定着に向けて本格的な活動を開始しました。

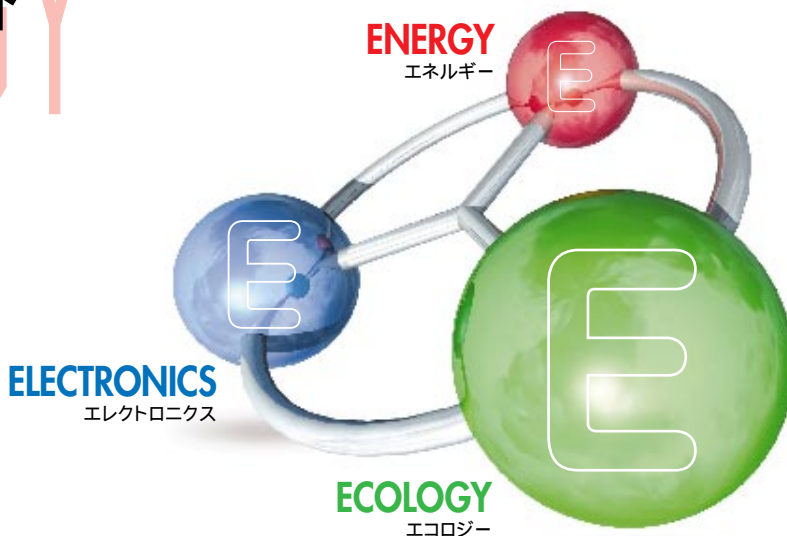
<将来的に発生すると考えられる諸問題を、設計の段階で未然に防ぎ、製品をより良くする>ことを目的に、製品開発の節目ごとに設計・開発・製造・営業などの各部署が参画するDRを実施。大気や水質などの公害防止策や、産業廃棄物の低減策について討議しています。



# ECOLOGY

## 環境配慮型製品の紹介

グローバルな視点に立ち、  
自然と人間のエコロジカルな調和を  
めざす日本ガイシでは、  
環境保全や省エネルギーを実現する、  
数々の製品を送り出しています。



### NAS電池

高性能なベータアルミナセラミックスを使った新しい電力貯蔵システム「NAS電池」は、電力エネルギーを有効利用し、資源や環境の保護に役立ちます。

### 燃焼システム / キルンファニチャー

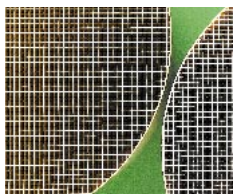
創業以来の焼成技術を集積した日本ガイシの燃焼システムは、燃料を節約し、CO<sub>2</sub>などの排出を低減する地球環境に優しいシステムです。また、キルンファニチャーの豊富なラインナップも、省エネルギーに大きく貢献しています。

### セラミック膜浄水システム

コロイドやウイルスなどを精密に除去できるセラミック膜フィルターを使い、新しいタイプの家庭用浄水器や、コンパクトで高性能な水道用浄水システムを実用化しました。

### 排ガス浄化用触媒担体(ハニセラム)

自動車の排気ガスの浄化には欠くことのできないものとして、すでに累計3億個以上を出荷。さらに、通気抵抗を減らすとともに、エンジン始動直後の排気ガス浄化性能を向上させる超薄壁のハニセラムの開発も進んでいます。



### ディーゼル・パーティキュレート・フィルター

ハニセラムの「セル」の両端を交互に塞ぐことで、ディーゼル排気ガスの黒煙微粒子を除去します。セラミック製なので、たまった黒煙微粒子を燃やせば、フィルター機能を回復できます。すでにフォークリフトや市営バスなどに使用されています。



### リサイクルプラザ

日本ガイシの提供する「リサイクルプラザ」は、あらゆる廃棄物を効率的に選別し、高いリサイクル率を確保する施設です。施設の建材などにもリサイクル品が採用されています。図書館やコミュニケーションルームと併設されることも多く、選別・再生機能と啓蒙機能を併せもった、全く新しい市民参加型のリサイクルプラザを提案。リサイクルを通じての市民交流をバックアップしています。

### 下水処理システム

毎日大量に発生する汚泥の容積を減らし、無公害化するための汚泥焼却など、下水処理のさまざまなシステムを設計、施工しています。近年では省エネや省スペースを実現した循環流動焼却など、新しい技術も提案しています。



### 流動床式ガス化溶融システム

都市ゴミをガス化し、そのガスを利用して未燃物を1300~1400°Cの高温で溶融、スラグ化するという次世代型のゴミ処理システム。ダイオキシンなどの有害物質の発生も抑制することができます。

### 透水性ブロック製造システム

下水を処理したあとに残る汚泥焼却灰を、高い透水性と着色などの加飾性を併せもつブロックに変身させるシステム。処分にも困る焼却灰を焼結させることで、雨水対策に役立つ新しい資源としてリサイクルすることができます。



### カレット吸音板

ガラスピンなどの廃ガラス(カレット)を骨材とし、セメントと混合して成形したリサイクル吸音材で、都営三田線の地上高架にも取り付けられています。96年、日本環境協会からエコマーク商品の認定を受けました。



# 公害防止関連法及び公害防止協定の規制値と実測値の状況

## 名古屋事業所

所在地 / 名古屋市瑞穂区

須田町2番56号

生産品目 / 排ガス浄化用触媒担体  
(ハニセラム)



## 知多事業所

所在地 / 愛知県半田市

前潟町1番地

生産品目 / ガイシ、送・変電用機器、  
化学工業用セラミックス、ベリリウム銅展伸材、半導体プロセス用セラミック部品など



区分	項目	規制値	実測値		
			平成8年度	平成9年度	平成10年度
大気	燃料中の硫黄 (%)	0.1*	0.10	0.10	0.03
	NO <sub>x</sub> (ppm)	180	110	95	72
	ばいじん (g/Nm <sup>3</sup> )	0.15	0.002	0.002	0.002
水質	pH	5.7~8.7	6.2~7.6	6.8~7.6	6.6~7.8
	SS (mg/ℓ)	600	2~25	5~39	5~32
	BOD (mg/ℓ)	600	1~10	1~21	1~32
	油分 (mg/ℓ)	5	0.5~2.2	0.5~4.5	0.5~1.3
	他の金属塩等(mg/ℓ)	下水道法	N.D.or Tr.	N.D.or Tr.	N.D.or Tr.
騒音	昼間 (dB)	70	52~70	54~69	53~69
	夜間 (dB)	60	51~61 <sup>1</sup>	49~60 <sup>1</sup>	53~62 <sup>1</sup>
地下水揚水量 (m <sup>3</sup> /日)	330	170	180	152	

1...暗騒音を含む

### 規制値の対象となる関連法及び協定

大気.....愛知県条例(\*印は名古屋市との公害防止協定)

水質.....下水道法

騒音.....名古屋市条例

地下水揚水量...愛知県条例

区分	項目	規制値	実測値			
			平成8年度	平成9年度	平成10年度	
大気	燃料中の硫黄 (%)	0.5	LNGに転換	LNGに転換	LNGに転換	
	NO <sub>x</sub> (ppm)	150	81	93	110	
	ばいじん (g/Nm <sup>3</sup> )	0.2	0.07	0.08	0.055	
	工場総排出量 (g/日)	Be	10	0.497	0.475	0.477
				~0.505	~0.660	~0.571
住居地域での排出濃度 (μg/Nm <sup>3</sup> )	0.01	0.00004 ~0.00013	0.00004 ~0.00008	0.00003 ~0.00008		
水質	pH	5.8~8.6	6.9~7.3	6.6~7.3	6.8~7.2	
	SS (mg/ℓ)	30	1~6	2~8	2~6	
	COD (mg/ℓ)	20	3~5	2~3	2~5	
	油分 (mg/ℓ)	2	0.5~1.3	0.5~0.6	<0.5	
	銅 (mg/ℓ)	1	0.01~0.04	0.01~0.03	0.01~0.03	
	亜鉛 (mg/ℓ)	1	0.05~0.08	0.03~0.10	0.05~0.09	
	溶解性鉄 (mg/ℓ)	0.5	0.1~0.5	0.1~0.5	0.1~0.4	
騒音	昼間 (dB)	65	43~64	44~64	44~63	
	夜間 (dB)	65	39~61	42~65	42~62	
振動	昼間 (dB)	70	<45	<45	<45	
	夜間 (dB)	70	<45	<45	<45	

### 規制値の対象となる関連法及び協定

大気.....半田市との公害防止協定

水質.....半田市との公害防止協定

騒音.....半田市との公害防止協定

振動.....半田市との公害防止協定

### 小牧事業所

所在地 / 愛知県小牧市大字  
二重堀字田神1155番地  
生産品目 / 送電用懸垂ガイシ、  
変・配電用機器、ガラス基板、  
透光性アルミナ(ハイセラム)  
など



区分	項目	規制値	実測値		
			平成8年度	平成9年度	平成10年度
大気	燃料中の硫黄 (%)	0.6	0.09	0.09	0.09
	NOx (ppm)	170	97	100	100
	ばいじん (g/Nm <sup>3</sup> )	0.2	0.01	0.02	0.01
水質	pH	5.8 ~ 8.0	5.9 ~ 7.6	6.4 ~ 7.8	6.3 ~ 7.8
	SS (mg/l)	80	1 ~ 9	1 ~ 7	N.D. ~ 7
	BOD (mg/l)	17	1 ~ 4	1 ~ 4	N.D. ~ 4
	油分 (mg/l)	2	0.1 ~ 0.7	0.1 ~ 0.6	N.D. ~ 0.7
	亜鉛 (mg/l)	3	0.1 ~ 0.2	0.1 ~ 0.3	N.D. ~ 0.5
	ジクロロメタン (mg/l)	0.2*	N.D.	N.D.	N.D.
	他の金属塩等 (mg/l)	水濁法*	N.D. or Tr.	N.D. or Tr.	N.D. or Tr.
騒音	昼間 (dB)	65	49 ~ 64 <sup>2</sup>	51 ~ 65 <sup>2</sup>	53 ~ 63 <sup>2</sup>
	夜間 (dB)	55	47 ~ 62 <sup>2</sup>	45 ~ 62 <sup>2</sup>	48 ~ 62 <sup>2</sup>
地下水揚水量 (m <sup>3</sup> /日)		4023	3281	3150	3145

2...測定場所 / 隣接道路( 暗騒音を含む )

#### 規制値の対象となる関連法及び協定

大気.....小牧市との公害防止協定  
水質.....小牧市との公害防止協定( \*印は水質汚濁防止法 )  
騒音.....愛知県条例  
地下水揚水量...愛知県条例

pH:水素イオン濃度  
SS:水中の懸濁物質濃度  
COD:化学的酸素要求量  
BOD:生物化学的酸素要求量  
N.D.:定量下限値以下( 不検出 )  
Tr.:極微量

# 私たちは地球環境問題を考慮し、 資源のリサイクルと環境保全を考えています。

この環境レポートは



環境にやさしいと認められ、エコマーク認定を受けています。  
使用している紙とインキもエコマークの認定を受けています。



印刷用紙には、牛乳パック古紙100%のリサイクルペーパー「グラフィー  
ミルク100」を使用しています。木材パルプの代わりに牛乳パックを再  
利用することで、大切な緑を守るとともに資源を有効活用。さらに、ごみ  
の削減にもつながります。



従来のインキに含まれていた石油系溶剤を削減した大豆油インキで印刷  
しました。大豆油インキは、限りある石油資源消費を抑えると同時に、印  
刷中に生じる大気汚染の原因となるVOC(揮発性有機化合物)の排出を  
低レベルに抑えることができます。また、植物性の油であるため、廃棄物  
の生分解性が早く、脱色性も優れているため、再生紙にも適しています。



日本ガイシ株式会社

広報室

〒467-8530 名古屋市瑞穂区須田町2番56号  
TEL(052)872-7181 FAX(052)872-7690  
<http://www.ngk.co.jp>